



20大山ま第276号

平成20年10月23日

国土交通省道路局長 様

大山崎町長 真 鍋 宗



今後の道路行政についての意見・提案の提出について

平成20年9月19日付け国道企第37号で依頼がありました標記の件につきまして、別添のとおり提出いたします。

①道路行政全般について改善すべき点、要望や提案

京都府大山崎町

1. 本町では、安全・安心で災害に強いまちづくりのため、幹線道路へのアクセス道路整備、生活関連道路やバリアフリー化等への整備、及び橋梁等既存道路の老朽化への計画的管理等が差し迫っており、今まで以上に道路財源の確保が必要とされます。よって、維持管理にも適用でき地方の自主性・裁量性を生かした補助制度の確立と地方配分を高める措置を講じて頂きたい。
2. 本町では、国道・高速道路及びJCT・ICの整備が進められており、広域交通の利便性が向上すると同時に、地域の交通や生活環境に大きな影響を受け、負の負担を担っております。また、狭小な町域であるがゆえに、道路用地買収による企業の転出や道路用地となったためによる固定資産等の税収減で、財政危機の一端ともなっております。このような高規格幹線道路整備によって生じる課題を解決する施策の実施及び支援を要望します。
3. 幹線道路の渋滞の解消、地域活性化の支援、物流の効率化を図るため、高速道路料金引下げ等による既存高速ネットワークの効率的活用を促進して頂きたい。

②-1 地域の現状と抱える課題

京都府大山崎町

○現状

1. 大山崎町は、古くから交通の要所で、京阪神間のボトルネックにあたります。
市街化区域4km²とコンパクトな町域に、JR東海・西日本・阪急の3鉄道、名神高速道路・京都第二外環状道路の高架道路、それに加え国道171・478が縦横断しており、地域を分断され、まちづくりが難しく、環境面でも大きな影響をうけている。
また、最近では、大山崎IC及び国道478の供用により、朝夕の交通量ピーク時に国道171で日常的に渋滞が発生し、迂回路として通過車両が生活道路へ流れ込み、通勤・通学等日常生活の安全を脅かす現象が生じている。
併せて、国道171や478、及び名神高速道路と京都第二外環状道路に接続する大山崎JCT・ICが整備・供用され、広域的利便性が高まる一方で、アクセス道路等が未整備のため、これら道路結節点へ近道として生活道路への通過交通の流入も発生しており、これについても、通勤・通学等日常生活を脅かしている。
鉄道では、東海道本線との踏切道が主要町道で、大山崎山荘美術館・社寺等観光名所へアクセス道路でもあり、切長が長く、遮断時間も10h/dayを越え、安全性・利便性に問題がある。
3. 大山崎JCT・ICの緑化等、及びその周辺は未利用地が殆どなく、周辺活用・整備が問題となつている。
4. 生活幹線道路は、狭隘なため円滑な交通、安全性や利便性、あるいは防災機能上からも問題がある。
5. 生活道路は、狭隘道路が多く、拡幅整備や交差点改良がまだまだ数多く必要としており、ストックの計画的な維持補修も山積している。

○課題

- 1-①地域分断の緩和のため、高架下の有効活用を図るための優先措置と国・府等の整備支援。
 - 1-②環境保全・改善のため、広域幹線道路大気観測・騒音等観測施設の維持経理費が大きな負担となっている。
観測点も不足しており、増加と原因者管理とする措置。
また、環境改善のための新たな措置と支援の構築。
 - 1-④171の渋滞を解消。生活道路への通過交通流入を防ぐ。
ハード、ソフト(公共交通の整備と利用促進)面の整備。
 - 1-⑤広域道路網・高速ネットワークの整備促進される中、アクセス道路・バイパス整備、交差点改良等の整備・支援が必要。
 - 1-⑥高速ネットワーク効率的活用の一環とする低料金施策の促進。
 - 1-⑦踏切除却対策、JRが山裾に走っていて立体交差が困難である。
駅の橋上化による自由通路の整備
 - 1-⑧狭い町域では、高速ネット等の整備に伴い、利便性が増す一方で道路占有面割合が多くなり、税収減に繋がっている。
3. 負の要因を解消するため、緑の拠点整備等や地域の活性化。
 4. 5.
 - ①狭隘な府道・町道の通学路の安全対策及び拡幅整備
 - ②人と環境にやさしい安全で快適な歩行者・自転車交通網の整備。(通学路の歩道整備、交通安全対策、エコ対策)
 - ③既存道路のバリアフリー化の促進。
 - ④道路のもつ消防・防災機能、アメニティ機能、交流機能の向上
 - ⑤ストックの維持管理に対する財源の確保

②-2 地域の目指すべき将来像

京都府大山崎町

- ・京都縦貫道路・新名神等の広域交通網整備の進行に対応し、生活交通の安全性・利便性の向上にむけた、新たな道路交通体系の構築を図り、通過交通については、バイパス等幹線道路の整備により生活道路への侵入を抑制し、より安全で便利な生活道路交通体系を構築する。
- ・道路のもつ消防・防災機能、アメニティ機能、交流機能等の向上を図り、道路の多機能化を進め、安全・安心で災害に強いまちづくりを目指す。
- ・歩行者・自転車系交通空間を整備し、バリアフリー化等で高齢者等にやさしい交通体系を確立させ、人や環境にやさしい安全なまちづくりを目指す。

③道路施設の重点事項(代表事例、期待する効果や評価等)

京都府大山崎町 1/2

○重点事項	○代表事例	○期待する効果や評価等	○その他
・地域活力の向上	・地域分断要素である高速道路の高架下利用 ・JR東海道本線の踏切除却又は駅舎に鉄道を横断できる自由通路を整備する。 ・対面通行も出来ない区間もある狭隘な主要地方道路の拡幅整備 ・狭隘な生活道路の拡幅整備 ・大山崎JCT・ICの周辺整備・活用	・高架下にアメニティー施設等を整備し、地域交流の場として、分断を緩和する。 ・開かずの踏切の解消と、踏切長が長いため、歩行者・車両の通行中に遮断機が降りる等が頻繁し、安全性とバリアフリーが確保できる。 ・路線バス・緊急車両がスムーズに通行が確保され、定時性や速達性の機能向上。 ・道路のもつ消防・防災機能、アメニティー機能の向上 ・IC直近の現況では、交通量増加や渋滞により、乗入れの支障に繋がり、沿線利用が難しい傾向にある。この負の要因を逆転する地域活性化。	
・都市交通の快適性・利便性の向上	・公共交通の整備・利用促進 高規格幹線道路やそれに伴う側道等関連道路の整備、ネット構築を利用したバス路線を整備する。 ・二外ICや幹線道路へのアクセス道路やバイパス等の整備促進 ・国道171・478の交差付近の渋滞を解消	・広域的には高速バス等、生活関連では、路線バスの利便性を向上させ、利用促進により、自動車交通量を減らし、環境改善や渋滞緩和等の対策とする。 ・生活道路への通過交通の流入を抑制し、地域交通の円滑化が図れる。 ・上記に同じ	
・総合的な交通安全対策及び危機管理の強化	・対面通行も出来ない区間もある狭隘な主要地方道路等生活幹線道路の拡幅及び歩道整備	・通学路の安全確保と災害に強く活動機能が向上する。	

③道路施設の重点事項(代表事例、期待する効果や評価等)

京都府大山崎町 2/2

○重点事項	○代表事例	○期待する効果や評価等	○その他
・総合的な交通安全対策及び危機管理の強化 ・良好な生活空間・自然環境の形成 ・少子・高齢者に対応した子育て環境、バリアフリー社会の形成	・生活幹線道路・生活道路において、自転車・歩行者道の交通網の整備。 ・大山崎JCT・ICを拠点とする緑地等整備 ・大気、騒音の観測点を増加する。 ・バリアフリー構想での生活関連経路とする府道・町道の整備。	・コンパクトな町域では、自転車や歩きが有効な交通手段であり、通勤・通学での安全が向上し、人と環境にやさしい安全で快適なまちづくりとする。 ・緑の拠点として整備し、地域の環境を改善する。 ・名神高速に対して、大気観測所は設置しているが、二外や国道171・478の交差付近に観測点がなく、増加により、これら隣接の体育館・中学校の環境保全と地域の環境保全を図る。 ・阪急、JR及び公共施設への連絡道路の改良やバリアフリー化が整備され、子供から高齢者まで安全安心な道路空間とする。	